

議 長
確認印

総務文教常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 27 年 5 月 1 日 13 : 30 閉会 平成 27 年 5 月 1 日 15 : 28
2 場 所	埴町公民館 第 1 会議室
3 出席委員	藤田高志、鈴木茂、鈴木孝則、鈴木幸江、大縄武夫、小林達信、鈴木道男
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 説明員	教育長 藤田 充、学校教育課長 益子和憲、指導主事 阿部貴史、埴小学校長 吉田信也、常豊小学校長 西牧武美、笹原小学校長 吉田和賀子 埴中学校長 大越憲峰 その他各小学校生徒指導主事
8 付議事件	第 1 児童生徒のソーシャル・ネットワーキングサービス (SNS) の利用状況
9 議事の経過	<p>副委員長：開会 委員長：あいさつ 教育長：あいさつ</p> <p>委員長：委員会を始める。全体について教育長が説明をしてから各学校長から取り組みを説明願う。 教育長：町全体の取り組みについて説明する。SNS の利用は社会的問題でもある。町としては、アンケート調査を実施し問題の把握に努めている。現在のところ問題はないと認識している。資料に児童生徒の SNS の利用に関しての調査結果を掲載した。小学校から中学校へ学年が上がるにつれ使用が広がっている。</p> <p>以下、提出資料に基づいて各学校の取り組みを説明。</p> <p>(埴小学校) 埴小学校長：H26 校長会調査結果を資料により説明する。(説明略) ネットトラブル等は発生していないが、利用している児童がいるので指導をしている。保護者の理解と対応が重要である。警察署職員の講話や県 PTA からの資料配布などで対応している。 ネットトラブルよりは生活時間の適正化に関して取り組んでいる。ノーメディアデーの活用。</p> <p>(常豊小学校) 常豊小学校長：H26 校長会調査結果を資料により説明する。(説明略) 情報モラルに関する講演会や学校便りでの啓発に取り組んでいる。教職員の理解が大切、研修を予定している。長時間ネット利用児童には個別に指導している。 保護者の理解が大切、道徳教育の中で思いやりの大切さを指導していく。ノーメディアデーの活用。</p> <p>(笹原小学校) 笹原小学校長：H26 校長会調査結果を資料により説明する。(説明略) 使用する児童は増えてい</p>

る。現在は、家族との連絡が目的になっているが利用範囲の拡大が懸念される。

情報モラルに関しては、児童保護者それぞれに対応している。ノーメディアデーの活用。

(埴中学校)

埴中学校長：通信機能を持った音楽機器による LINE の利用が多い。授業の中で指導しているほか学年集会や講演会で啓発している。保護者には学年懇談会などを利用して啓発。

有害情報に関する対策は、まず予防教育。授業の中で具体例を出して話し合いをしている。次に、相談体制の確立である。いろいろな問題は、生徒が教師に話をすることで発覚することが多い。生徒たちと話しやすい環境を作ろうとしている。

生活時間に関しては、家庭学習の習慣化を目指している。本校の家庭学習時間は全国平均より劣り、メディア活用時間が多いという結果である。何とか習慣化を図りたい。また、保護者に対しての啓発もあらゆる機会を利用して行っている。

異質なものへの寛容性

時間のコントロール (友人間でコントロールできるように)

情報機器の性能に追いつくのは困難であるがそのような状況を理解して対応を進めたい。

(質疑)

大縄委員：学校だけの問題ではない。家庭、保護者の協力が学校以上に重要。そのような体制作りが大切。

委員長：先ほど笹原小の長時間利用者に対して児童保護者に指導したというが、そのように早い対応が必要になる。

鈴木(茂)委員：中学校では携帯電話の持ち込み禁止というが、実際には持ち込んでいると聞く。親との連絡などであろうが、その状況は把握しているのか。

埴中学校長：原則持ち込まないとしている。持ってくれば教師が預かることになっているが教師が預かったとの把握はしていない。

鈴木(茂)委員：検査などはやらないのか。

埴中学校長：やっていない。持ってきたかどうかは分からない。持ってきていないと信じるだけ。

教育長：かつては持ち物検査として所持品を出させるなどしていたが、今は社会的にもそのようなことが許されない状況である。保護者が許さない。持ってこないと宣言をして、発見されたら適正に対応することでやっている。

鈴木(茂)委員：小学校の方はゲーム機の利用が多い。ゲーム、SNS の利用で視力が落ちると言われる。このことは調査してもらいたい。また、使用料は親持ちなので金銭感覚がまひする。

埴小学校長：使用時間と視力、金銭感覚の低下は心配される。そのためにも使用時間の制限を取り組んでいる。視力低下は保健指導などを行っているが、金銭感覚は家庭の問題。

常豊小学校長：視力の問題ははっきりしない。長時間の弊害は指導していきたい。利用そのものの実態に関し保護者も分からないのではないのか。その点理解していただくことが大切。

笹原小学校長：視力低下との関係は調べていないが、視力低下と肥満は笹原小学校の問題点なので指導をしている。金銭感覚については保護者にも理解していただくようにしたい。

鈴木(孝)委員：中学校の持ち込み禁止は守られていないと聞いている。持ち込み禁止を分かって

親は買い与えているので、使い方のマナー（学校では電源を切るなど）を親として指導することが必要。保護者の考え方もちゃんとしなければならない。親の教育が一番大切。何回も保護者に対して伝えるべき。

埴中学校長：高校も持ち込み禁止である。持ち込み禁止は貫いていきたい。事実持ってきているのにとという人がいるかもしれないが原則禁止は守りたい。

鈴木（幸）委員：この問題は家庭での問題が学校に持ち込まれていると理解する。多くの子供たちが深夜 SNS をやっているとする学校だけの問題ではない。各学校の対応でいいのか。町全体での対応が必要でないか。

埴中学校長：幼、小、中共通して取り組んでいくことがあるだろうということで「はなわっこプラン」がある。高校まで含めると埴の特色になる。

笹原小学校長：「はなわっこプラン」の保護者への浸透を図っている。幼少中に浸透しているのではないか。

常豊小学校長：町全体で取り組んでいることで児童保護者への働きかけもしやすい。

埴小学校長：規則正しい生活を指導しているが、家庭の状況は必ずしも把握しきれていない。PTAの役員などでは SNS の問題は必ず出される。町全体に浸透すれば前進である。

教育長：山本五十六の言葉があるように、保護者が自ら主体的にやって見せ。言って聞かせること。そして、やらせて、子どもに自ら気づかせ褒めてやるのが大切。まずはやって見せが十分かどうか。町全体として各種団体等の協力のもと教育委員会が中心となつてつなぐ教育を浸透させていくことが非常に大切である。いじめに関しては、いじめ防止対策委員会があるのでそこに上がってくるような問題があつてはならないが、そのようなセーフティネットもある。皆で対応していきたい。

鈴木（幸）委員：ノーメディアデーの具体化について把握しているか。

教育長：把握している。

埴小学校長：チェックシートを作成して、児童保護者が記入できるようにしている。徐々に理解されている状況にある。

（指導教師から具体的状況について説明あり。）

説明要旨

- ・子どもたちからノーメディアデーの話が出るようになった。
- ・家庭での対応が2分している。浸透させたい。
- ・SNSは情報の手段となっており「ノー」は難しい。コントロールできることが大切。

鈴木（幸）委員：長時間利用児童等への対応は。

委員長：さきに説明はあつたが。現場の先生から。

（指導教師から具体的状況について説明あり。）

説明要旨

- ・授業で指導したり個別指導もする。しかし、保護者の把握が足りない場合がある。
- ・家庭学習の時間確保を進めている。保護者の理解が得られない場合もある。根本的指導の中に情報機器関係の指導も取り入れて行うようにしている。

藤田（高）委員：SNSについて教員はどの程度理解しているのか。子どもが先行してしまってい

るのではないか。川崎の事件の例でも関係機関が情報共有を密にしていたという。どの程度踏み込んで理解されているのか。

委員長：ここにいる皆さんはどうなのか。

（教育長はじめ出席説明委員はスマートホンを持っておらず、LINE など SNS の利用は低いか、経験がないと回答。若い職員は SNS 利用しているようだが、年配の職員は理解が低い。子どものレベルに追い付いていない、職員の研修が大切との意見）

藤田（高）委員：研修をしても追いつけないと思う。若い先生方との情報共有などが必要。内容を理解したアンケートでないと意味が薄れる。情報提供者を保護する態勢がないと表に出てこない恐れがある。

（常豊小学校長退席）

藤田（高）委員：情報機器の事故を考えると、情報提供しやすい状況を作る必要がある。

埴中学校長：そのことではないが、子供たちの環境はそれぞれ違っている。厳しい環境下にいる子供もいる。そのような子供たちのセーフティネットとしては、部活動の集団、学校での集団がその子らの居場所になる。そのようなところがあれば、家庭環境の厳しさをカバーできると思う。地域も大切である。学校としては、学校の集団の中で居場所を作ってその子がのびのびと生活できる環境を維持していくのが大切だと思っている。

大縄委員：ノーメディアデーは効果がある。保護者の協力によってもっと増やせばさらに効果が上がる。

教育長：効果を把握しながら浸透を図っていきたい。

鈴木（道）委員：身勝手な親も多いと聞く。このような中では対応が困難だと思う。しかし、地域の浸透も必要。区会などを利用して8か条などを話していくことも重要でないか。

鈴木（茂）委員：ノーメディアデーは素晴らしいが、検証が必要。プラスアルファとしてその日は読書をしようとか、その時間を利用した取り組みが必要でないか。

笹原小学校長：チェックシートにはその時間やっちはどうかという事例を挙げている。シートにはその内容を書くようにしている。

鈴木（幸）委員：表面化してこないネットいじめがあることがこれら調査のきっかけである。チェックをどのようにしていくのか。

教育長：いじめ調査を定期的にやっている。保護者にも行っているが、ネット問題を含め事実があればかなりの精度で出てくる。現在のところそれがない。今後ともアンケート調査をとっていくことで対応したい。常に情報収集に努めたい。

鈴木（幸）委員：地域の情報はどこで収集するのか。地域の人もしじめに現場などを目にする必要があると思う。

教育長：民生児童員から情報収集する。学校が行うことは度をを超えていると思う。町の制度、期間とのタイアップが大切であると思う。

（「教育長の考えは理解できない。」という人あり。）

委員長：その件は別なところで話してほしい。

鈴木（孝）委員：愛知県の自治体では市を挙げて対応に取り組んでいる。安城市か。参考になると思う。

教育長：豊橋市でも取り組んでいるようだ。中身は、埴のものと大差ないと思う。ノーメディアデーに幅を持たせたものと理解する。

委員長：これで質疑を終わる。

（説明員退席）

（休憩）

委員長：再開する。委員討議だが、各委員の報告書を持って討議としたい。

（異議なし）

委員長：各委員は5月15日までに報告書を提出してほしい。これで会議を終わる。

副委員長閉会

埴町議会委員会条例の第27条の規定により署名する。

平成 年 月 日

総務文教常任委員長